

八島智子先生への憧憬と感謝を込めて

学部長・研究科長

今井裕之

八島智子先生は、1994年の関西大学の総合情報学部創設時に着任されて以来、外国語教育研究機構、外国語教育学研究科、外国語学部の全ての創設に関われ、その間、副学部長や英語部会長などを長年お務めくださり、現在のような外国語学部・外国語教育学研究科に至るまでの歴史をずっと歩んでこられた、いわば道を切り開いてくださった先生のお一人です。その八島先生が、関西大学での28年間、それ以前の大学教員歴を含めると37年間に及ぶ研究・教育生活を経て、本年2023年3月31日をもってご退職されることに、強い寂寥感と深い敬意を抱かずにられません。

八島先生のご経歴を改めて拝見すると、通訳者としてのキャリアもお持ちですし、高等学校の教科書編集にも携われるなど、幅広く社会的貢献をされていらっしゃいます。とはいえ、八島先生といえば、動機づけや異文化コミュニケーションなどに関する研究成果であり、Willingness to Communicate理論にも影響を与えたInternational Postureのご研究などの、国際的な活躍かと思えます。私自身も八島先生のことを知ったのは、前任校で院生の研究指導をしながら先生の論文を読んだことが最初だったと思います。その後、初めて直接お会いしたときに「著者に会えた！」とドキドキしたのを覚えています。関西大学外国語教育学研究科は、著名な研究者を招聘して公開研究会や講演会を開催しており、英語教育研究者の間では当時から話題になっていましたが、私もそのような研究会に参加して、八島先生から学ばせていただき、またその際に私の研究に興味をもっていただけたことが自信になったことを思い出します。

個人的なことで恐縮ですが、八島先生と定期的にお会い（お見かけ）する機会が長年ありました。コロナ禍によって私の方は途絶えてしまったのですが、先生も私も、あるオーケストラの定期演奏会を鑑賞していたのです。ある時「あれ？八島先生？」と大ホールの中で気づいて以来、時折演奏会のお話をしたり、今年はお互いの席かなと目で探したりする楽しみが加わりました。

この度、八島先生が少しでも早く関西大学をご退職になるのは、残る私たちとしては、寂しい気持ちを禁じ得ません。一方で同時に、八島先生の今後の生活をより充実させるためのご判

断かと思っています。これまでの先生のご貢献に深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。